

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.819 2022

2022年9月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

「今こそ地球市民の育成を」

第20回世界YMCA大会（7/3-9）基調講演より

潘 基文 氏
前国連事務総長

世界は今、かつてないほど多くの危機に直面しています。ウクライナへの軍事侵攻をはじめ、8年も続くイエメンの紛争などにより、世界では1億人以上が避難生活を送っています。アフガニスタンやミャンマーでは、軍事政権によって市民の自由が奪われています。気候変動の問題も危機的ですし、新型コロナウイルスの影響も想像以上に深刻でした。

その中でYMCAが今回、2030年に向けた行動計画として「Vision2030（＝3面参照）」を採択したことは大きな意味があります。ここに掲げられた4つの計画、すなわち「Community Wellbeing（コミュニティーウェルビーイング）」「Meaningful Work（やりがいのある仕事）」「Sustainable Planet（持続可能な地球）」「Just World（公正な世界）」は、まさに世界の課題に応えるものです。

YMCAには、世界120の国と地域のネットワークと若者たちの力を活かして、これらの大きな課題に取り組むことを期待しています。若者たちの小さな行動が、大きな山を動かす力になる。彼らこそが変革者、チェンジメーカーです。

そのためにもユースの育成は大切です。世界ではまだ多くの子どもたちが学校に行かれず、識字教育も行き届いていません。失業状態の若者も増え続けています。ヤングケアラーの問題もあります。けれども質の高い教育によって地球市民を育てていかなければ、地球の未来はありません。世界で何が起きているのか、過去の失敗を繰り返さないためにはどうしたらいいか。気候変動の問題がいかに重要で、自然の恵みがどれほど尊いものなのか。そういった将来への危機感とそれを変えるための知識やスキルをもったリーダーシップを育てなければなりません。

私は1962年、18歳のときに赤十字国際委員会の活動に参加し、40カ国の青年たちと一緒にジョン・F・ケネディ大統領に会う機会がありました。大統領は「良い仕事に国境はない。地球市民という概念が大事なのであって、国境は意味がない」と話されました。当時はまだ冷戦下で東西の対立も激しく、私にはすぐに理解することができませんでしたが、その後、韓国と国連とで50年間仕事をする中でずっと、この言葉を大切にしてきました。人間はみな同じです。国籍、国境、性別、職業などは関係ありません。世界の隣人と助け合わなければなりません。

これからのリーダーに求められるのは、大志と、思いやりと、情熱です。そのバランスがとれていないと、方向を誤ってしまう。どんなに進んだ技術も、他者のためにならなければ意味がありません。気候変動などの問題は、一国だけで解決できるものではありません。地球市民として考えること。他者と協力し、手と手を取り合って進むこと。「みんなのものが一つとなるように」というYMCAのミッションは、今こそ大きな意味があります。この世界の危機を、社会変革のチャンスとして、力を発揮してほしいと期待しています。



潘基文氏は、2007年～2016年まで国連事務総長を務めた韓国の外交官。「持続可能な開発目標（SDGs）」の策定に携わったほか、2015年の「国連気候変動枠組条約締約国会議（COP21）」では、温室効果ガス排出削減等のため「パリ協定」の採択を主導した。現在は、潘基文世界市民センターの代表として地球市民の育成に努めている。

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。 <https://www.ymcajapan.org/>

ignite

第20回 世界YMCA大会

HYBRID EVENT - AARHUS, DENMARK & ONLINE

3-9 JULY 2022

史上初のハイブリッド開催。デンマークに1200人、オンラインで1300人



2019年から3年間にわたり、世界の3分の2以上のYMCAが携わって作成された「Vision2030」は、世界YMCA共通のビジョン、共通の戦略です。その中には世界のYMCAとして特に注力すべき4つの社会課題と、それぞれに対する12の優先目標が示されています。

第20回世界YMCA大会で「Vision2030」が採択され、いよいよ各国・地域のYMCAで実行に移す段階に入りました。そのスタートアップとして、4つのテーマについての具体的な知見を得るためのグループセッション(コ・ラボ Co-Lab)が活発に行われました。コミュニティのニーズや戦略とあわせやすいこともVision2030の特徴の一つです。4年後にカナダ・トロントで開催される第21回世界YMCA大会ではVision2030の経過報告が世界中から集まることが期待されています。

「Vision2030」が、強調する4つの柱



Community Wellbeing

コミュニティ ウェルビーイング



Meaningful Work

やりがいのある仕事と環境の創造



Sustainable Planet

持続可能な地球のために



Just World

公正な世界の実現のために

4年に1度開催される「世界YMCA大会」が7月3日～9日、大会史上初めてのハイブリッド形式で実施され、会場のデンマーク・オーフスには約1,200人、オンラインでもほぼ同数が参加し、あわせて約2,500名が参加しました。ウクライナ、ロシアからも参加があり、世界のYMCAファミリーとして暖かく迎えられました。日本からは現地に13名、オンラインで44名、総勢57名が参加。その規模の大きさ、多様性の豊かさなど、170年に及ぶ世界YMCA運動の歴史に残る大会となりました。

2018年にタイ・チェンマイで開催された前回大会から今大会までの4年間、世界中のYMCAが大きな困難を抱える中、各地の声を反映して作られた「Vision2030」が採択されたことは、今大会の大きな成果でした。大会中はVision2030を実行するためのヒントや知見を得られるよう、多くの工夫がされていました。また、今大会の決議事項として、2022年から2026年の任期で、世界YMCA同盟の役員3名、常務委員11名が投票により選ばれました。新しい会長は2期続けて女性が、常務委員会は半数以上がユースで構成されることとなりました。また、YMCAコンソボの世界YMCA同盟への加盟が承認されました。

Vision2030の実現、それは、より世界がよくなること、すなわち、ポジティブネットのある豊かな社会の実現に近づくことでもあります。そのためには一人ひとりの変革が不可欠であることが、繰り返し語られました。今大会のテーマ「IGNITE (火をつける)」のとおり、「Vision2030」に向けて、変革への火が灯された世界YMCA大会となりました。



1 Vision2030採択の様子。各決議はすべて会場とオンライン双方で行われました。2 デンマークYMCA会館 3 オンライン配信のための本格的な設備 4 次期の世界YMCA同盟常務委員たち 5 新会長ソヘイラ・ハイエック氏(写真左)と前会長パトロシア・ベルトン氏



大会のダイジェスト動画はこちらから▶



■デンマークのホスピタリティ

大会をホストしたデンマークYMCA/YWCAでは、参加者のサポートのため約100名のボランティアが活躍したほか、北欧の文化や生活体験ができるツアーが用意されるなど、配慮の行き届いた大会運営がされました。中でも1000名の参加者が3～8人ずつ一般家庭を訪問する「ホームビジット」は、地域に根ざしたデンマークYMCA/YWCAならではのコーディネート力で、参加者は一様に感銘を受けていました。



Let us ignite for change Vision2030!

Vision2030へ、変革の灯を

岡戸 良子さん | 2018-2022世界YMCA常務委員
2019-2023アジア・太平洋YMCA同盟理事



写真左から岡戸さん、カルロス・サンビー世界YMCA同盟総主事、田口秀日本YMCA同盟総主事

私は前回、2018年チェンマイで開催された第19回世界YMCA大会にて世界YMCAの常務委員に立候補し選ばれ、この4年間、世界YMCA同盟カルロス・サンビー総主事とパトロシア・ベルトン会長の下、世界120カ国につながる国際NGOとしてのYMCA運動を体感し、とても有意義な経験をさせていただきました。心からお礼申し上げます。

しかしながらこの4年間のうちの半分は、世界が経験したことのないCOVID-19のパンデミックにより大変厳しい状況が私たち委員会にも起き、年2回行われる常務委員会はほぼオンラインで行いました。このような状況の中でもカルロス総主事から呼びかけられた「3R」、レジリエンス、リカバリー、リイマジネーションを基に世界のYMCAに連帯を呼びかけ、一つになったことを思い出します。また、通常の委員会数よりオンラインにて頻りに会合を持ち、カルロス総主事の下、次の8年の指針や、ガバナンス、持続可能な常務委員会のあり方など委員全員で考え議論したことは、本当に良い経験となりました。

今回の第20回世界YMCA大会で無事にVision2030が採択され、新常務委員も世代交代が行われました。引き続き女性が会長となりジェンダーバランスが図れた人選となるなど、多くの成果が見られたことを、感謝のうちに報告させていただきます。(日本YMCA同盟常議員・横浜YMCA常議員)

参加者の声

世界の仲間と、初心を見つめなおして

私は世界YMCA大会前に行われた「ワールド・ミッション・カンファレンス」から参加し感銘を受けました。このカンファレンスには、17カ国から51人が参加し、YMCAを原点から見つめなおす時間となりました。聖句「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである」(マタイによる福音書5章16節)を読み、YMCAは、創立者ジョージ・ウィリアムズが、産業革命下で荒んでいた若者たちの心に喜びの光を分かち合いたいと望んで始めたムーブメントだということ。私たちは光を輝かせ、一人でも多くの人に喜びと希望を届けるために遣わされているということ。この初心を世界の仲間と共に再確認した時間は、私にとって大変貴重な体験になりました。会の中で、世界YMCA大会に向けて、参加者全員で心を合わせて祈る時間がありました。世界YMCA大会、さらに世界中のYMCAのそれぞれの働きが、祈りの上に成り立っていることを実感しました。



茨城YMCA 竹内 光世さん

分回8時間 世界のエネルギーを実感

私は大会中、年齢も立場も違う仲間たちと計約8時間にわたるオンライングループセッションに参加し、「Just World (公正な世界)」について話し合いました。初めに公正な社会とは何か、参加者の関連する活動共有等をし、その後このテーマにどう取り組むかを各自チャットに入力。私が書いた「ユースのために、安心で希望をもてる社会をどうやって共に作りあげるか(How might we co-create a safe and hopeful society for the youth?)」が取り上げられ、具体的な問題や解決策を全員で掲示板に書き込みながら話し合いました。難民支援をしているドイツ。地球市民育成に力を入れている南アフリカなど、みんなが世界を見つめて、各地でプログラムを展開している。そのような話を直接聞いたことはとても刺激になり、社会を良くする運動の一員であると感じ、嬉しく思いました。今後は各国のユースが前向きなアクションを起こしていること、一緒に頑張る仲間の存在を周りの会員、生徒やスタッフに伝えていきたいです。



大阪YMCA 大阪府立水都国際中学校・高等学校 大島 凛さん

オンラインとは思えない臨場感を体験

私はCo-Labと呼ばれる少人数のオンライングループセッションに参加しました。Vision2030の4つのテーマのうち、興味のあるテーマを選び、3日間連続で行われるグループ協議で、私は「コミュニティウェルビーイング」を選びました。グループは私を含め7名と、ファシリテーター1名にて進められました。初日は自己紹介、2日目は各国の実情の共有、3日目は今後Vision2030実現のために取り組めることについて意見を出し合いました。「若者のメンタルヘルスに力を入れたい」「ジェンダー差別のない地域にしたい」。各国の参加者からは次々と意見が出されました。オンラインとはいえども、日を追うごとにメンバーに親近感を覚え、最終日はいつかリアルに対面しよう、と約束しました。オンライン参加でしたが、現地で直接参加しているような感覚を覚え、Vision2030をはじめ世界YMCAがどのような目標に向かっていくのかを知ることで貴重な機会でした。



横浜YMCA 大和YMCAライフサポートセンター 益 聡さん

山梨YMCA ゲーム感覚でゴミ拾い 『清走中甲府編』に150人参加

ゴミ拾いと某人気テレビ番組を融合したゲーム感覚ゴミ拾いイベント「清走中甲府編」を7月18日、舞鶴公園で実施しました。「悪の組織によるゴミのばら撒きに怒った武田信玄公が、現代に蘇って甲府に現れる」という山梨ならではのゲーム設定のもと、約50組150人が甲府城に集結。運営に当たった15名のユースリーダーと共に、合計50キロのゴミを集めることができました。

この「清走中」は、社会課題解決型ビジネスとして20代の若者によって興された株式会社Gabが企画運営しているイベントです。昨年秋、日本YMCA同盟を通じて「山梨で実施しませんか」というお声かけがあったことから実現しました。ちょうど山梨YMCAでは「Y's×SDGs Youth Action 2022」の応募を検討していたときで、ぜひユースアクションの一企画として「清走中甲府編」を実施しようということになりました。

募集開始から3日間であつという間に定員を超えるほどの反響があり、長年地域に根差した青少年活動を行っているYMCAと協働することで、社会への影響力が2倍にも3倍にもなるということを実感しました。社会課題解決のためのステークホルダーとして、また、他団体との協働による相乗効果をもたらすプラットフォームとして、YMCAが地域の中で担う役割を確認し、その第一歩を新しいユースと共に歩み出したところです。

山梨YMCA 福田 奈里子



広島YMCA「第2回ユース平和ミーティング」 在日韓国人被ばく者の証言を聴く

「平和を築くために私たちができることの1つは“知ること”」。広島YMCAユースリーダーの呼びかけで7月29日、「ユース平和ミーティング」がオンラインで開催され、全国のYMCAから35人が参加しました。

このイベントは、コロナ禍で中止となった「広島YMCA国際青少年平和セミナー」の代わりに学生たちが企画したもの。例年は、国内外のユースと共に平和記念式典などに参加していますが、今年は視点を変え、在日韓国人被ばく者の李鍾根(イ・ジョンゲン)さんの証言を聴くとともに、在日本韓国YMCA職員の田附和久さんから日韓の歴史についても学びました。

李さんは16歳のとき、爆心地から約2キロ地点で被ばく。持っていた弁当箱が30mも飛ばされるほどの爆風の中、重いやけどを負いました。けれども在日韓国人2世である李さんは差別を恐れ、「在日韓国人であることも、被ばく者であることも隠して生きてきた」と、その重たい心の内を話されました。学校の先生までもが韓国人を差別し、日常的に暴力をふるわれてきたこと。85歳になるまで本名を名乗れなかったこと。戦争は人命を奪うだけでなく、国家間の憎しみや差別もうみ出すという恐ろしい歴史に、参加者からは「原爆のことを分かっていたつもりでも理解できていなかった」「李さんから託された思いを伝えていきたい」など、多数の意見が交わされました。学生たちは引き続き学びを深めようと、10月21日に続編を開催予定です。

李鍾根さんの被ばく証言はこちらでご覧いただけます。▶
<https://youtu.be/mRDji7h2o1A>



【追悼】

李さんはこの動画配信の後、7月30日に亡くなられました。「人生の最後まで証言を続けたい」と、私たちにその辛い記憶を託して下さったことに感謝するとともに、心からご冥福をお祈りします。

ウクライナから日本へ YMCAネットワークで避難をサポート

軍事侵攻からまもなく半年。今なお日本YMCA同盟には、日本への避難の相談が寄せられています。これまでに避難のサポートをした方は68組151人(7月18日現在)。来日後も住まいの準備や就職、教育など生活基盤を整えるため、他団体と協働しながら支援を続けています。

「東京都ウクライナ避難民マッチング支援」協定締結

日本YMCA同盟は7月、東京都および東京都つながり創生財団と「東京都ウクライナ避難民マッチング支援(愛称「ポポートヌイク・トーキョー」)」について協定を締結しました。

この協定は、都内に避難している約300人のウクライナ避難者の抱える課題、たとえば就業や保育、介護、メンタルヘルスなどの課題に対して、官民連携して取り組むために締結されたものです。愛称の「ポポートヌイク」は、ウクライナ語で寄り添う伴走者の意。YMCAには一人ひとりのニーズを把握し、支援策に結び付けていくことが期待されています。

■日々の支援活動の様子はツイッターをご覧ください。
<https://twitter.com/YMCAHELPUKRAINE>



■「note」には、避難ストーリーも掲載しています。
<https://note.com/yurianne>



日本の生活講座



避難者の生活相談や在日ウクライナ人との交流を行っている「Ukraine Café HIMAWARI」(新宿区四谷)では、「日本の生活講座」を開講。6月には日焼け止めなど日本の暑さ対策を学んだほか、7月には履歴書の書き方など就職の知識を学びました。

小中高生12人来日



横浜YMCAは横浜市等と協働でオデーサの柔道クラブの小中高生12人の避難を支援しました。国外への避難が難しい環境にある子どもたちで、コーチ2人が引率して来日。8月下旬まで日本の子どもたちとの交流や富士山YMCAでのキャンプを行いました。

チャリティーコンサート



東京YMCAは6月24日、「ウクライナ支援チャリティーコンサート」を開催。霊南坂教会(港区赤坂)を会場に、オルガンやピアノの演奏のほか、ウクライナ民話「てぶくろ」の朗読が披露されました。来場者は約120人。10月28日に第2回を開催予定です。



「ウクライナ避難者支援募金」のお願い

YMCAの支援活動は、皆さまからの募金によって行われています。戦況が長引く中、引き続きご協力をお願いします。

- ゆうちょ銀行 振替口座(振替貯金)
00190-6-464236 日本YMCA同盟地域国際募金口
- クレジットカード・銀行振込は下記サイトから
<https://www.ymcajapan.org/ukraine-donation/>

